

国立科学博物館（科博）のクラウドファンディング（CF）をメディアはどう報じたか？

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

橋本佳延



2023年に科博が実施したCFは、1億円という目標金額の高さ、初日での目標達成、日本CF史上最高額の9億円超を集めたことなどで話題となり、様々なメディアが博物館に関して多数報道しました。

日本各地の博物館が標本・資料や文化財の価値を後世に伝えつづけられるようにするには、科博CFを一過性の出来事として消費せず、メディアがどのように報道し、世論が博物館の存在をどう捉えてたかを把握することが必要と考えました。

そこで、2023年に国内で報道された311件の記事・放送を対象に報道量の経時変化や内容の分析を進めています。報道量はCF開始週と終

了週で突出して多く、皆無だった週はCF開始から第10週目のみと、過去にない量・期間で博物館に関する情報が社会に発信されました。

考察記事（社説や雑誌記事）23件を分析したところ、科博CFの評価については「多数・多額の支援が集まったことに対する好評価」（7件）が多かった一方で、「標本保存のための光熱費等基礎的予算の不足をCF頼りとする事への疑問」（7件）も多数みられました。

報道には博物館の現状・課題についての多角的な情報や、博物館に対する多様な意見が集約されています。今後はさらに詳細な分析をすすめていきます。

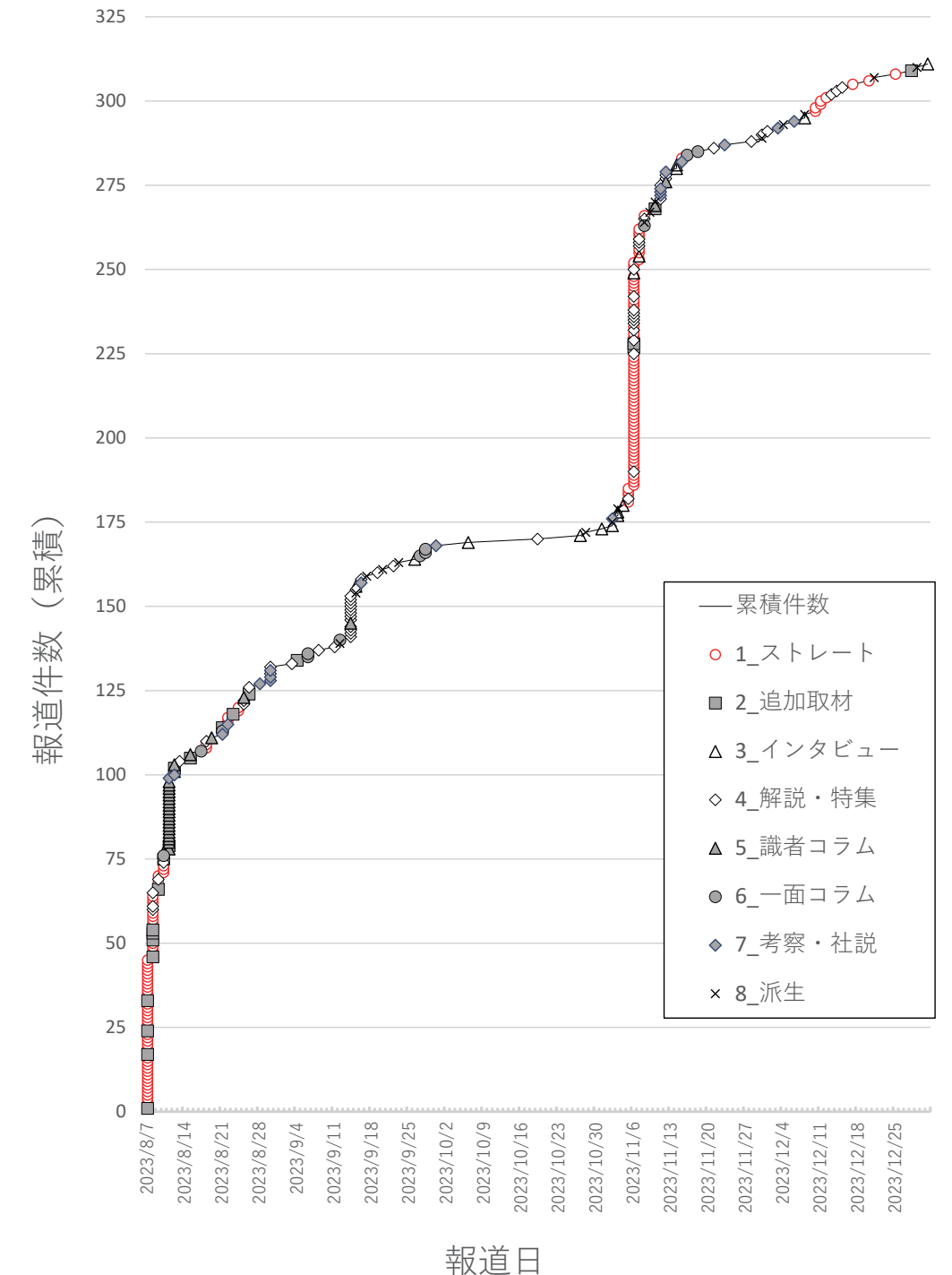


図 科博CF関連の国内報道件数（累積数）の推移（2023/8/7～12/31）